

全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

平成20年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、本校の特徴と今後の取組についてご報告いたします。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎませんが、この調査結果をもとに、生徒一人ひとりの学力や生きる力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。

地域・保護者のみなさまには、本調査の趣旨を十分に理解の上、今回の報告を受け止めてください。

< 実施の概要 >

1 調査の目的

国が、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図る

各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図る

各学校が、各児童生徒の学力・学習状況を把握し、教育指導や学習の改善等に役立てる

2 調査実施日 平成20年4月22日(火)

3 調査内容 教科に関する調査

国語A、数学(算数)A 主として「知識」に関する問題

国語B、数学(算数)B 主として「活用」に関する問題

質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面の調査

4 調査対象 中学校3学年 小学校6学年

5 調査結果の公表・・・国による公表

国、都道府県、地域の規模別における調査結果を公表

児童生徒の生活習慣や学習環境、学校における教育条件の整備状況等と学力との相関関係を分析、公表

6 調査結果の提供

都道府県、市町村、学校に各々の調査結果を提供

児童生徒に対しては、答案は返却されないが、学校を通じて設問ごとの正答や誤答の状況が分かる個人票を返却

* 個々の市町村名や学校名を明らかにした公表は行わないなど学校間の序列化や過度な競争につながらないように配慮。ただし、市町村・学校は、自己の結果を保護者等へ説明することができる。

< 昨年度からの取り組み >

国語・・・国語の力をつけるために、授業だけでなく、あらゆる場面においてより豊かな言語活動を目指すようにする。

数学・・・応用問題はもちろん、図形などじっくり考える問題を苦手としている。プリント学習など教材を工夫し、じっくりと指導していく。

学校生活全般

将来や生活に対する目標や意欲における割合が低いことを受け、生徒のよりよく生きる意識を高め、豊かな心の育成を目指す。

調査結果の概要

教科学習状況調査の結果

{ 国語・数学ともに }

A問題 「知識」はおおむね理解しています。

B問題 「活用」はおおむね活用する力は身に付いていますが、一部課題があります。

それぞれの教科の内容については次のとおりです。

- ・・・「よい状況」と考えられる内容です。
- ・・・「指導・改善が必要」と考えられる内容です。

{ 国語科 }

- ・ **話すこと、聞くこと** 話し合いの方向をとらえて、適切な発言をすること。
- ・ **書くこと** 表現に注意しながら文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直して書くこと。
- ・ **読むこと** 文章の書かれた目的を考え、表現の仕方の特徴をとらえること。文章やグラフから必要な情報を正しく読み取ること。
- ・ **言語事項** 配列・配置に注意して書くこと。辞書を活用して、慣用句などの意味を適切にとらえること。

{ 数学科 }

- ・ **知識・理解** 二元一次方程式の解の意味を理解している。円錐の体積の求め方を円柱との関係から理解している。
- ・ **表現・処理** 整式の加法・減法の計算をすることができる。事象の起こり得る確率を求めることができる。反比例のグラフから、その関係を式で表すことができる。
- ・ **見方、考え方** 問題場面における考察の対象を表すことができる。事象を数学的に解釈し、問題解決方法を数学的に説明することができる。

質問紙調査結果（本校と県・全国との比較から読み取れること）

平日、朝起きる時間が遅く、又寝る時間も遅い傾向にある。

テレビゲームやインターネット、携帯電話の通話やメールを利用する時間が多い。学校の授業時間以外で勉強する時間の割合が多く、約7割の生徒が塾や家庭教師による勉強をしている。

学校の規則を守っていると回答した割合が昨年より増え、割合は全国・県とほぼ同じ。

いじめは絶対にいけないと回答した割合が昨年より増え、割合は全国よりは低い、県よりはやや高い。

国語の勉強は大切だと回答した割合は高いが、読書は好きですかに対する回答はやや低い。

< 本校の今後の取り組み >

この結果を参考にして、さらに教科指導の工夫・改善を推進します。

{ 国語科 }

語いとして文脈に即して使用できるように、漢字を読んだり書いたりする機会を多くして習熟を図る指導の工夫・改善を推進します。

{ 数学科 }

昨年度よりも全体的に正答率が上がっており、学習への意欲も向上している。

全般的にじっくりと考える内容を苦手としており、特に図形分野を苦手としている。

今後も、継続的に丁寧な指導を心がけ、苦手分野をなくしていきたい。

{ 学校生活において }

今後とも、思いやりの心や規範意識を高めるなど、豊かな心を育成し、何事に対しても落ち着いて取り組むことのできる学校生活を目指します。